

第26回 新丸山ダム勉強会を開催

「ほめ言葉」を伝えるワーク



6月17日(金)、八百津町ファミリーセンターにおいて、「第26回 新丸山ダム勉強会」を開催しました。

今回の勉強会は、事務職員が講師役となり、①「事業損失」について、②「スイッチonプロジェクト」をテーマに、県可茂土木事務所、恵那市、可児市及び八百津町の職員(8名)も参加されました。

「事業損失」については、左高用地官がその社会的背景から被害形態、発生防止対策、費用負担等について、具体的な事例を交えながら説明しました。

「スイッチonプロジェクト」については、これまでのものと趣向を変え講義形式ではなく、体験形式(ワーク)で、中嶋総務課長が心と身体を考えた取り組みを紹介した後、全員参加をもらい、相手に「ほめ言葉」を伝えるワークを行いました。日頃から言い慣れていない感謝の言葉を伝えたり、もらったりすることによって、笑顔の輪が広がりました。

聴講する参加者



「水の流れてみる洪水と対策の仕組み」

昨年7月に八百津町・可児市で発生した豪雨災害はまだ記憶に新しいところですが、近年、地球温暖化に起因する気候変動により、毎年のように全国各地で洪水災害が発生しています。

洪水災害を軽減するためには、治水対策だけでなく、住民一人一人が、常日頃より災害に対する危機意識を持つことが必要です。

当事務所のホームページでは、洪水が発生する仕組みや、治水対策を説明したアニメーションを公開しています。興味のある方は是非ご覧になってください。

ホームページアドレス

http://www.cbr.mlit.go.jp/shinmaru/103_mizunonagare/main.htm

